（1）　（明治25年3月28日第3種郵便物認可・昭和24年2月17日運輸省特別扱弗認第16号）　（日刊）

尾島 不明の か

子供の白骨体発見

利根川河川敷 失跡現場近く

二十七日午後零時五十分ごろ、新田尾島町前小屋の利根川左岸で、釣り場所を探していた釣り人が川岸から三メートルほど離れたアシの中から白骨体を見つけ、太田署へ届けた。死体は発見されて、死後一年以上経過、検視の結果、上あごの歯から年齢は八十歳と推定された。同署管内の町で昨年九月、=台目宅を出たまま行方不明になっている。このため同署では、遺骨を持ち帰り、きょうこ十八日、県警機動隊、捜査一課の応援を得て百五十人態勢で遺骨付近を検索するほか、群大法医学教室で白骨体を司法解剖して年齢や性別、外傷の有無などの特定を急ぐ。（関連記事18面）

この死体の可能性が高いとみて、きょうこ十八日、県警機動隊、捜査一課の応援を得て百五十人態勢で遺骨付近を検索するほか、群大法医学教室で白骨体を司法解剖して年齢や性別、外傷の有無などの特定を急ぐ。（関連記事18面）

きょう司法解剖

地元の水際から三メートル離れたアシの中で、薄茶色に変色した頭がい骨を見つけた。検視の結果、白骨体は、両脚のヒジから先、両足のヒザから先、背骨を強いられており、頭を上流に向けて、一部へ曲がっていない状態だった。骨は一二八センチで、完全な状態に近いとみられ、身長は十メートル七十センチ以上とみている。さらに骨の全体的なバランスから「女性と思われる」との判断を示している。しかし、両脚のひじから先、両足のひざから先が全く見つかっていない。

現場は国道354号線から南二百メートルの利根川一里河川敷で、釣り人を装いて訪れる人はほとんどない。発見現場近くの高速道路の高架橋下の河川敷は、散乱状態から流れ込まれる可能性は少ない。同所合流している。なお、死体は、何者かにより遺棄されて隠れ潜む。

今回の白骨体は、一昨年九月、現在、行方不明になっている=台目宅を出たまま行方不明になっている。

釣り場を探すため、建設中の新上武大橋（仮称）下流の利根川左岸を歩いていたところ、約八百メートル離れた白骨体を発見したのは

白骨体が発見された現場

「博物館」建設へ本腰

太田市 文化創造の拠点に

太田市は、文化財の保存と[illegible]設構想を打ち出し、前向きに検討している。昨年の市議会[illegible]民俗資料館建設調査研究委員会（倉島慶勝委員長）の最終答申を受けて本格的に動き出したもので、第四次市総合[illegible]建設計画の後期（六十六～七十年度）計画の目玉施設として建設したいとの意向。現在は、立博物館などと六つの博物館を[illegible]進めて調査研究などの各施設[illegible]を併設して各種展示の調査[illegible]市民に答申した。

答申をうけて、市は、文化財の保存と[illegible]設構想を打ち出し、前向きに検討している。昨年の市議会[illegible]

新人は全員当選

粕川村議選

任期満了に伴う粕川村議選は、十七日、村内七カ所の投票所で行われ、[illegible]

陛下のご容体

（宮内庁発表）
27日午後5時半）

体温	37.1度
脈拍	78
血圧	102—40
呼吸数	15

首相、公選法改正に本腰（2面）

開業医の平均月収228万（3面）

89年国公立大入試展望（12面）

上毛新聞
〒371 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
編集(代)電話…(0272)41-2341(代表)
広告・販売・事業…(0272)41-2342
総務…(0272)41-2343
印刷…(0272)41-2344
上毛新聞社　1988

伊香保温泉湯元 横手館

発奮する高崎

21世紀へのツチ音

■上■5

都市型観光開発

「高崎には、文化的な顔がない。首都圏産業のバックオフィスなどが集積し、観光客が集まって、地元の産業を振興するような高崎市形成をするには、首都圏から見て魅力的な文化都市の顔づくりをしなければならない。」

地元商業者から学識者らで構成する「市観光振興ビジョン実施計画策定調査委員会（委員長・松本良平高崎観光協会理事長）の幹事会は、都市型観光開発を目指して、この理念を、会議の中で何度も話し合ってきた。その中で、開発の切り札として今、熱い目を向けているのが、高崎のシンボルともいえる白衣大観音。ありこれをとりまく観音山丘陵。

伸び悩む観光客

繁華街を出て、観音山を望む

観音山丘陵

文化都市の顔づくり

百万余、面積二千百ヘ。率直に言って、地元の人にとっては、近距離にこんな資源を有する恵まれた環境にあるのだ。

県立自然公園の高崎山（通称・氷川）を中心とする観音山丘陵は、市街地から車で三分、さらに車で五分も走れば中心市街地は眼下に広がって、快適な住宅地が推移している。そして、同丘陵は、丘陵の麓在力が生かしきれていないという反省に立って、白衣大観音の南側の約四十五ヘ帯の現状、農業の野外コンサート場づくり、複合的なレジャーランドの誘致建設、観音山と外林山のなだらかな丘陵、まるごとレールがするイベント

繁華街を出て、観音山を望む

まで車で五分、さらに車で五分も走れば中心市街地は眼下に広がって、快適な住宅地のドライブとなる。標高差は、都市型観光開発を目指して、この理念を、会議の中で何度も話し合ってきた。その中で、開発の切り札として今、熱い目を向けているのが、高崎のシンボルともいえる白衣大観音。ありこれをとりまく観音山丘陵。

百万余、面積二千百ヘ。率直に言って、地元の人にとっては、近距離にこんな資源を有する恵まれた環境にあるのだ。

県立自然公園の高崎山（通称・氷川）を中心とする観音山丘陵は、市街地から車で三分、さらに車で五分も走れば中心市街地は眼下に広がって、快適な住宅地のドライブとなる。標高差は、都市型観光開発を目指して、この理念を、会議の中で何度も話し合ってきた。その中で、開発の切り札として今、熱い目を向けているのが、高崎のシンボルともいえる白衣大観音。ありこれをとりまく観音山丘陵。

伸び悩む観光客

繁華街を出て、観音山を望む

観音山丘陵

文化都市の顔づくり